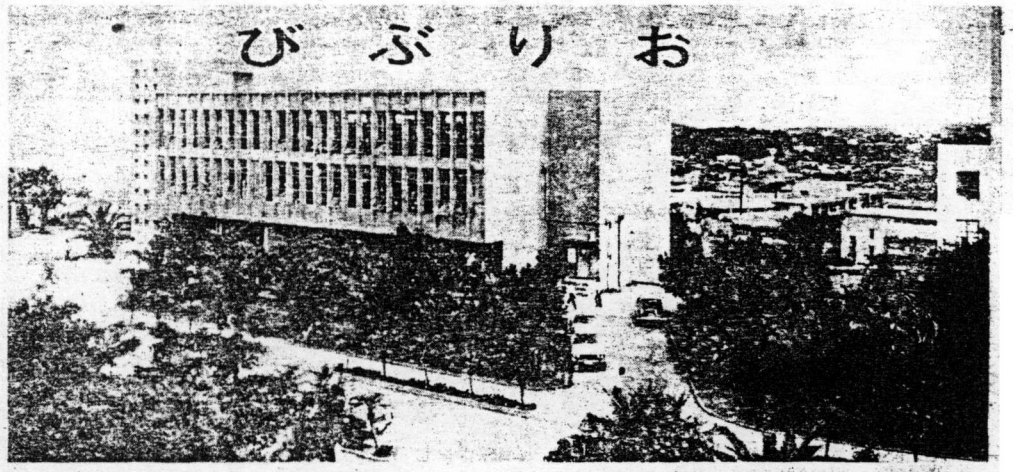
琉球大学附属図書館報



VOL. 7 NO. 5 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1974.9.1.

昭和48学年度
学生の館外貸出（一般図書）状況調査

近年学生の図書館利用状況が低調の傾向がみられるようである。たとえば、読書。学習環境など図書館施設の不備もその原因の一つであろうこともさることながら、一般図書の館外貸出状況についてみると(注) 昭和47学年度を100として昭和48学年度において、貸出冊数（9%）、貸出延人員（8.6%）の低下現象がそれを如実に示してくれる。　本調査に類似する調査実績がないため、比較分析することはできないが、先述の低下現象からみてある程度そ及類推することが可能であると考えられる。

このような現象は一時的なものなのか、あるいは漸減的なものであるのか等について今後の調査研究に期待するとして、さしあたり図書館利用サービスのあり方などについて模索資料の一助にしたいために調査したものである。

（注）　昭和47学年度　41,583冊（32,429人）
　　昭和48学年度　37,526冊（27,911人）

調査方法

1. 学生各自の貸出票を基礎資料として算出する。
（注）この貸出票は、その学年度を通して、年次別・学部学科別・学生番号・氏名などの順にフアイルし、カウンターに常備されている。貸出規程（2冊）の限度について予知及び

確認できる情報源が係員に提供される仕組になっている。
したがって日常業務（貸出手続き）によって、年間学生各自の貸出冊数が数量的には握できる情報源でもある。

2．貸出票による館外貸出図書の算出及び数量化の配分は
0　　貸出票に貸出の押印のないもの
1～5冊　　貸出票にその範囲内での貸出の押印のあるもの
6～10冊　（同上）
11～15冊　（同上）
16～20冊　（同上）
20冊～・　貸出票にその範囲外での貸出の押印のあるもの

3．算出の単位は学生の実人員をもって示す。

4．留年生及び研究生、聴講生は除外した。

5．休学・退学生は参考資料程度に算出し、算出単位の実数外である。

6．調査期日は昭和49年4月～5月にまとめたものである。

調査分析

別表の集計表にもとづいて、次の分野を分析してみた。

1．各学部別の貸出状況　（単位＝%）

冊	0	1～5	6～10	11～15	16～20	20～	計
法文	20	29	18	13	7	13	100
教育	12	26	20	13	13	16	100
理工	17	29	16	13	10	15	100
保健	27	28	16	12	7	10	100
農学	18	28	21	12	9	12	100
計	17	28	18	13	9	14	100
短大	51	37	7	3	1	1	100

0＝貸出経験のない学生は保健（考慮すべき点あり）、法文、農学、理工、教育の順で全学部から17%を占める。
1～5冊を借りている学生は全学部の28%を占めていることが注目される。
短大部の貸出経験のない学生が、短大部全体の51%を占め

1～5冊の37%などが注目される。

2．学年次別の貸出状況　　（単位＝%）

A）学　部

年次＼冊	0	1～5	6～10	11～15	16～20	20～	計
1年次生	28	37	17	9	4	6	100
2年次生	16	32	18	14	9	10	100
3年次生	11	20	20	14	12	24	100
4年次生	13	25	19	14	12	17	100
計（%）	17	28	18	13	9	14	100

B）短大部

年次＼冊	0	1～5	6～10	11～15	16～20	20～	計
1年次生	64	32	2	1	0.5		100
2年次生	52	39	6	1	0.5	0.5	100
3年次生	29	37	16	8	4	6	100
計（%）	51	36	7	3	1	1	100

学部における1年次生全体のなかで貸出経験のない学生が28%を占め、各区分間の割合がほぼ½の低減を示していることは注目されよう。2年次生から4年次生に進むにつれて、だいたい10～20%代にある。3年次生の20冊以上の24%は注目したい。

短大部における1年次生全体のなかで貸出経験のない学生が64%を占め、年次が進むにつれて低減の傾向がみられる。だいたいにおいて1～5冊を貸出する学生が30%代にある。その他は微々たるものである。

3．学部総計の算術的平均値　　（単位＝冊）

A）学　部

	M	F	F×M	平　均
1～5	3	999	2,997	〃
6～10	8	647	5,176	〃
11～15	13	453	5,889	〃
16～20	18	321	5,778	〃
20～	23	491	11,293	〃
計		3,691人	31,133冊	8.4冊

M＝中間値　　F＝頻度値

B）短大部

	M	F	F×M	平　均
1～5	3	180	540	〃
6～10	8	35	280	〃
11～15	13	15	195	〃
16～20	18	7	126	〃
20～	23	8	184	〃
計		245人	1,325冊	5.4冊

学部学生における貸出経験のある学生の算術平均は8．4冊（6～10）、短大部学生は5．4冊（1～5冊）である。ただし、この平均値はあくまで学生各自の貸出票から算出したもので、貸出経験のない学生及び休・退学々生などは除外した。いわゆる全学生（学籍をおく）数に対する割合ではない。

（閲覧係・新城　安善）

3）編著者が3名以上の場合
主な編著者1名を記載し、「等」あるいは「等編」、and others あるいは et al を付記する。
「例」

大島清等．日本資本主義 1．東京大学出版会，1972．295P．

藤木英雄等編．法律学小辞典．有斐閣，1973．1041P．

Crane, E. J. , and others. A guide to the literature of chemistry. 2d ed. New York, Wiley, 1957. 298P.

4）書名（標題）
書名は標題紙に表示されているとおりに記載する。ただし非常に長いものは、意味を変えずに省略してもよい。この場合は最初の単語あるいは文字を省略してはいけない。省略するときは・・・（三つ点）を使う。

5）版表示
内容に改訂・増補を加えた図書には、それぞれの版表示に従って、「改訂版」「第3版」「新訂7版」「増補版」「増訂版」、2d ed. 3d ed. Rev. ed. Rev. and enl. ed. などと記載する。（注）

「例」

田中義麿，田中潔．科学論文の書き方．訂正第23版．　華房 1969．374P．

Mellon, M. G. Chemical publications : their nature and use. 4th ed. New York, McGraw- Hill, 1965. P. 218.

（注）
「版」は英語のeditionにあたり、印刷に際して活字を組んで紙型にとる場合にできあがった全体が、一つの版を形成する。したがってそれに変更を加えると版が異なる。改訂版、増補版などは内容になんらかの変更が加えられて版が組み変えられたときに使われる言葉である。それに順序的なものが加わると第2版、第3版というふうに呼ばれる。
「刷」のほうは英語のprintingとかimpressionに相当するものであり、ある版から、あるときに、ある部数

を一度に刷った場合、それは同一の刷に属する。
刷はあくまで同一の版に対して用いられる言葉であって版に従属して考えられる。
ところが、わが国の出版界では版と刷が混同して用いられている例が多い。日本の辞典などで第13版とあって、中味を比較してみたら第1版と変っていないという例が少なくない。この際は第13刷とすべきである。
版の問題は、書誌学的に重要なだけでなく、実際に本を探す場合に有力な手がかりとなるものである。特に自然科学や技術の方面では版次の古いものは有用性が減じるので、その明確な表示がどうしても必要になる。(8)

6) 出版事項

出版地,出版者,出版年の順にコンマで区切って記載する。ただし出版地が「東京」の場合は省略してもよい。また編著者と出版者が同一であれば、出版者の表示は省略する。出版年は西歴によるが、1部2冊以上の図書で出版年が異なるものは、最初と最後の出版年をダッシュで結ぶ。1969- 1972.

7) 対照事項

対照事項とはページ数と図書の大きさの記載事項のことであるが、引用文献・参考文献の場合はページ数のみを記載すればよい。

8) 叢書注記

叢書名および叢書番号を対照事項(ページ数のあと)のつぎに()に入れて記載するが、不必要と思われる場合は省略してもよい。

「例」

歴史科学協議会編. 日本原始共産性社会と国家の形成. 校倉書房,1972. 413P. (歴史科学大系1)

D. 略語・略符

cp. cit. =上掲書

opere citato : in the work cited の略。同じ著者の同じ著書または論文について離れた箇所に記載する場合に用いられる。

「例」

(1) 佐藤春夫. 佐藤春夫全集 第7巻. 講談社,1968. P. 275～276.

(2) 菊池寛．半自叙伝．創元社，1955．P．159．（現代随筆全集　第30巻）

(3) 佐藤春夫，上掲書 P．628．

欧文資料の例はibid．の例を参照．

ibid．＝同　書

ibidem：in the same place の略．同一の著作からの引用がひき続いてなされる場合（ただしページは別）、直前の引用記入を繰り返す代わりに用いる。

「例」

(1) 佐藤春夫．佐藤春夫全集 第5巻．1967．P．122～125．

(2) 同書　P．128～129．

(3) 同書　P．125．

(1) Feller,W．An introduction to probability theory and its apprications．NeW York,John Wiley & Sons,1950．P150．

(2) ibid．,P．165．

(3) Mathematical details on this function are given in Appendix 1．

(4) MORse,P．M．Stochastic properties of waiting lines,Journal of the Operations Research Society of America．Vol．2,1954．P．44．

(5) Feller,op．cit．,P．210．

(6) ibid．,P．240．

loc．cit．＝同　所

loco citato：in the place cited．の略．同じ著書または論文の同じページを記載する場合に用いられる。

「例」

(1) 菊池寛．半自叙伝．創元社，1955．P．159．（現代随筆全集　第30巻）

(2) 正宗白鳥．正宗白鳥全集　第13巻．新潮社，1968．P．106．

(3) 菊池寛，同所

(1) Saaty, Thomas L. Mathematical theory of operations research. New York, McGraw- Hill, 1959. P. 345.

(2) loc. cit.

(3) MOrce, P. M. Queues, inventories and maintenance. New York, John Wiley & Sons, 1958. P. 65.

(4) Saaty, loc. cit.

4. むすび

引用文献・参考文献の記載目的の一つは「他の研究者が直接に文献を読むときの便宜のため」であることは前に述べた。引用された文献を他の人が確認する際に書誌的データが不備なために、図書館等へ行って調べてもみつからないという例はよくある。著者と書名だけを記して、出版者と出版年がないために、どこの出版者から、いつごろ出版されたのか皆目わからないのである。また叢書名及び叢書巻数を入れておけばた易く探せる資料も、それが記されていないために確認できないものもある。

引用文献・参考文献の作成においては著者名、書名、出版者、出版年、巻数表示、引用ページ数の記載は必須の条件である。

(参考調査係・仲西)

引　用　文　献

(1) 文部省大学学術局編. ドキュメンテーション ハンドブック (文献情報便覧). 東京電気大学出版局, 1967. P. 37.
(2) 藤川正信. 第二の知識の本. 新潮社, 1963. P. 316.
(3) 文部省大学学術局, 同所.
(4) 緒方富雄. 医学論文を書く人のために. 南江堂, 1968. P. 35.
(5) 文部省大学学術局, 同所.
(6) 緒方富雄, 上掲書 P. 36.
(7) 藤川正信, 上掲書 P. 313.
(8) 同　書　P. 293～294.

琉球大学附属図書館 "びぶりお" 第7巻5号 [通号28号]

昭和49年9月1日　発行　　編集兼発行人 平良恵仁

沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地　電話34—0101 (333)